

## オオサキワングーミュージアム 人と大自然の青空博物館

vol.40

大崎耕土インスタフォトコンテストの作品を募集します！

📞 農政企画課世界農業遺産未来戦略室 ☎23-2281

大崎地域世界農業遺産推進協議会では、「大崎耕土インスタフォトコンテスト2023」を開催します。このフォトコンテストは、大崎耕土をこれまで以上に多くの人に知ってもらい、未来につないでいくことを目的に、大崎耕土の魅力が伝わるさまざまな写真をInstagramで、8月1日(火)から募集します。

応募する際は、協議会公式Instagramアカウント(#osaki\_giahs)をフォローの上、応募専用ハッシュタグ「#大崎耕土フォトコン2023」を付けて、12月22日(金)までに、作品を投稿してください。入賞者には賞品として大崎地域(大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町)の地場産品などが贈呈されますので、奮って応募してください。詳細は、大崎耕土ウェブサイトを確認してください。

▶ 昨年度グランプリ作品

「船形連峰と春の月」  
遊佐 徹 氏(古川在住)撮影



◀ 大崎耕土ウェブサイト



## 広報に関する意見を募集します！

📞 秘書広報課広報広聴担当 ☎23-5023

市では、毎月発行している広報おおさきや市ウェブサイトで、市政情報などを発信しています。

市民の皆さんが必要としている情報を掲載し、より分かりやすく発信できるよう、広報に関する意見を募集します。

受付期間 7月24日(月)～8月31日(休)

回答方法 次のいずれかで回答

- ①市ウェブサイトのフォームに入力
- ②アンケート用紙に記入

市民課、各総合支所市民福祉課、各基幹公民館に備え付けのアンケート用紙に必要事項を記入し、窓口へ提出  
※アンケート用紙は、市ウェブサイトからダウンロードができ、秘書広報課へEメール、ファクス、持参、郵送のいずれかの方法で提出することもできます。



▲市ウェブサイトのフォーム

今月の紙

7月13日、岩出山地区公民館の事業で、男の料理教室が開かれました。今年度第1回目の開催となったこの日は、受講して9年目を迎えるベテランから、今回が初受講の人まで、13人が参加しました。

この料理教室は、講師の加藤美由紀氏が受講者のリクエストに合わせて考えたメニューを、受講者一人一人が調理する、実践に近いスタイルで行われます。今回のメニューは、夏野菜をふんだんに使ったカレーや冷製スープ、タンドリーチキンの3品で、受講者は講師の指導の下、和気あいあいとした雰囲気の中で調理を楽しみ、調理室内は食欲をそそる香りに包まれていました。

調理後は完成した料理を味わいながら、さらにおいしくなるコツなどを講師に質問するなど、料理の話に花を咲かせていました。▲講師から説明を受ける受講者



## みんなでエコっぺ！

～やってみよう「エコ活」～

📞 環境保全課環境保全担当 ☎23-6074

Vol.8

～公共交通機関を使ってみよう～

皆さんは通勤や出かけるときなど、鉄道やバスを使っていますか？1人が1km移動するときのCO<sub>2</sub>排出量は、マイカーでは145gですが、バスでは66g、鉄道では20gと、公共交通機関はCO<sub>2</sub>排出量が少ない移動手段です。

市では、CO<sub>2</sub>排出抑制や陸羽東線の利活用促進を目的に、今年の1月から公共交通通勤デーを実施し、現在は市職員が毎月2回、自家用車などでの通勤から、陸羽東線や市民バスなどに替えて通勤しています。

皆さんも、通勤・通学や旅行、ちょっとした外出などに公共交通機関を利用してみましょう！



▲公共交通機関を利用する市職員

広報おおさき8月号 2023 No.209

Main Contents

目次

04 ココロおどる、大崎の夏

08 CITY TOPICS

10 OSAKI Culture

11 オオサキプレイガイド

13 暮らしの情報  
おおさき市民健診 ほか

24 子育て支援情報 ほか

26 相談コーナー

27 休日救急当番医 ほか

28 MainDish

## 天地人

市長コラム

地域を「みず」から守る

全国各地で過去の記録を塗り替えるような豪雨災害が頻発しております。

大崎地域でも近年、平成27年関東・東北豪雨、令和元年東日本台風、令和4年7月豪雨と7年間に三度も記録的な豪雨に見舞われ、住家はもとより、道路、公共施設、農地や農業施設に甚大な被害をもたらしました。

頻発化・激甚化する水災害に備えるため、ダムや河川整備、遊水池、排水機能向上などの計画を加速させることはもちろんですが、これらに加えて、本川・支川、上流・中流・下流などの流域全体を関係者が協働で減災・水害対策を行う「流域治水」の取り組みが動き出しております。

7月5日、本市で「江合・鳴瀬・吉田川流域治水シンポジウム」が開催されました。

専門家、首長、議員、国・県・市町村、土地改良区、防災団体、自治会、地域住民な

ど320名が参加し、活発な討議が行われました。

大崎地域は、流域治水の先導的歴史があり、すでに実践が展開されております。平成29年に、大崎耕土の「巧みな水管理システム」が世界農業遺産に認定され、アクションプランを実践中です。

グリーンインフラの貯留機能を生かした「田んぼダム」事業も実証中です。

シンクタンクとの共同研究を基に、「水害に強いまちづくり」も展開中です。

総合的な流域治水を図るため、「特定都市河川」の指定も進めております。

命や暮らしを守り、水害に強い安全・安心なまちづくりを進めるためにも、流域治水の先進モデルを目指して、協働活動を展開してまいります。



大崎市長 髙橋康志